

令和 2 年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立大和田小学校

令和 2 年 4 月

## 1 学校運営の中期目標

社会に出て、夢をつかむことができる子どもを育てる	
<p>【 設定理由 】</p> <p>アメリカの大学教授であるキャシー・デビッドソン氏によると、「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」と予測している。将来、グローバル社会になり、仕事の自動化、AI化、ICT化が加速する。そんな社会で生き抜くには、自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく、自ら解決する能力を持ち、クリエイティブな発想、創造、企画ができることが大切である。同時に、ロボットにはない、人間的感情、優しさ、思いやりで満ちた豊かな心も必要である。</p> <p>そこで、夢を持ち、その夢の実現に向かって、見通しを持って努力を続けることができる子ども、自他ともに認め合い、支え合うことができる社会を担う子どもを育てることが、未来へつなげる教育と考える。</p>	

## 学校経営の重点

カリキュラム 改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学力向上をはかる（わかりやすい授業の追及）。 習熟度別授業・少人数授業の充実。読書活動の充実。 ICT を活用した授業の充実。英語教育の充実</li> <li>● 体力の向上をはかる。</li> <li>● 自尊感情の醸成、道徳教育の充実。規範意識を高める。</li> <li>● 健全な食生活の確立に向けて食育を進める。</li> </ul>
グローバル化 改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語イノベーション事業の推進。 C-Net や民間のネイティブスピーカーを招聘し、児童が英語を活用する機会をつくる。</li> <li>● 学校教育 ICT 活用事業の推進（拠点校）。 ICT を活用して協働学習や個別学習などの充実をめざし、授業の質の向上をはかる。</li> </ul>
マネジメント 改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師力・授業力の向上。 専門的な講師を招聘したり、先進的な教育実践を視察したりして授業力・教師力の向上をはかる。</li> <li>● 地域や異なる校種の学校園と連携の推進。</li> <li>● いじめや問題行動を生まない学校組織づくり。</li> <li>● 学校協議会と協働した教育の推進。</li> <li>● 地域と協働した防災・減災教育の実施。</li> <li>● 学校保健委員会を開催し、健康に対する意識の高揚をはかる。</li> <li>●</li> </ul>
ガバナンス 改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習規律・生活規律の確立。</li> <li>● すべての教員が、授業研究を伴う研究協議会を行い、授業力の向上をはかる。</li> <li>● メンターを活用した若手教員の育成。</li> </ul>

学校サポート 改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市や区の事業を活用し読書活動の推進をさらに進める。 図書室・学級文庫の充実。</li> <li>● 学校図書館の運営にボランティアの拡充を行う。 地域や民間の教育力を活用して、チーム学校の体制で学習活動を推進する。</li> <li>● 学校組織として、いじめや問題行動を生まない学校づくりをすすめる (S.S.W.事業を活用した、関係諸機関、行政機関と協働したケース会議の運営)。</li> <li>● 校務支援 ICT の定着。</li> </ul>
--------------	--

#### 現状と課題

「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」に関して、一昨年度に発生したいじめ事案の完全解消に向けて継続的、組織的に取り組み続けてきた結果、かなり落ち着いてはいるものの、常にいつ再発するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けている。不登校児童については、定期的な家庭訪問や連絡を通して、誠意ある対応で、まずは保護者、該当児童との関係づくりから、一步ずつ寄り添いながら対応している。防災・減災教育に関して、様々な訓練や学習がしっかり定着してきている。さらに保護者も地域も一斉にという連携に課題は残る。児童の基本的な生活習慣に関しては、保護者や児童の意識の改革、実践力の向上に継続的に努めている。

「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」では、ICT 活用事業モデル校に引き続き拠点校として機器活用に関しては多大な実績を残している。児童もタブレット端末を上手に使いこなせている。昨年度よりタブレット持ち帰り学習の検証にも取り組んでいる。教員の授業力向上のために、授業研究を行うに加え、専門的な実践を行っている研修会に参加し伝達研修を行うこともできている。体力向上については、本校独自の「体力の通知表（のびゆく姿）」の有効活用に取り組んでいる。さらに緑陰道路でのマラソン大会やチャレンジ縄跳び大会なども実践し、効果を上げている。英語については、英語重点校の時から継続している週 2 回 10 分のフォニックス学習、C-NET との連携、英検 Jr 受験等、年間を通して計画的にアウトプットを意識した実践を積み上げていく。

「主体的・対話的で深い学びを通して、自他ともに認め合い支え合える豊かな心の育成」を図るために ICT 機器を活用した協働的な学びの機会を多く設定している。昨年度 6 年生ではキャリア教育としてゲスト講師を招き、児童がインタビューし、その結果をプレゼンするという、6 年間の学びの集大成となる授業実践ができたが、今年度以降も継続させたい。たてわり班での活動場面も多く設定したことで、自分より下の学年に対する優しさがいろいろな面で発揮されていた。さらに幼小中連携を充実させ、地域と一体となって長いスパンで児童の成長を見守り、児童に自分は必要とされているという自己有用感を持たせ、自尊感情の高まりがみられるように引き続き取り組んでいく。

#### 中期目標

##### 【 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現 】

- 平成 29 年度～32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児

- 毎年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。

### 【 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上 】

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度より 5 % 向上させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 3 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率 7 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 28 年度より 5 % 増加させる。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である（50m 走と立ち幅とび）の平均の記録を、平成 29 年度より 4 ポイント向上させる。

### 【 主体的・対話的で深い学びを通して、自他ともに認め合い支え合える豊かな心の育成 】

- 平成 32 年度末の児童アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
- 平成 32 年度末の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 75% 以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現 】

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

### 【 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上 】

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 前年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において課題であった長座体前屈（柔軟性）と 20m シャトルラン（持久力）の平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。

**【 主体的・対話的で深い学びを通して、自他ともに認め合い支え合える豊かな心の育成 】**

- 年度末の児童アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。
- 年度末の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立大和田小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【 子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現 】</b> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 85% 以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <u>いじめ、不登校などの問題行動への対応</u> ・ 不登校やいじめなど配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・養護教諭・管理職が連携して問題事案に対応する。また、大和田小学校いじめ防止委員会を組織するなど、校内の組織を充分機能させながら外部機関とも連携して対応していく。 ・ 各学期に 1 回以上「いじめについて考える日」を設定し、道徳の学習などでいじめに関する指導を行う。 ( )	
指標 ・ 配慮や支援の必要な児童について、スクリーニングシートの活用や共通理解の場を年 10 回以上設ける。共有した情報をもとに、解決に向けて組織的に対応し、保護者アンケートで「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」と答える保護者の割合を 80% 以上にする。 ・ 1 学期は全校で「いじめについて考える日」を実施し、資料を基に 2・3 学期は各学級での道徳等で学期に 1 回以上いじめに関する指導を行うなど、定期的にいじめについて考え機会を設ける。	
取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <u>学習規律、規範意識</u> ・ 「生活のやくそく」「遊びのきまり」を全学級で掲示し、児童に常に意識させるようにする。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上委員会と生活指導部会が連携し、「学習のきまり」についての指導を通して、学習規律、授業中の態度の向上を意識させる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートで「学校のきまりを守っています」、「学習のきまりを守っています」と答える児童の割合を 90%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p><b>防災・減災教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火災、地震・津波の避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練や救急救命講習会などを実施する防災計画を立てて、実践する。</li> <li>・ 作成した防災計画を活用し、校内の組織を充分機能させながら、区の防災担当、警察署や消防署等とも連携して対応していく。</li> <li>・ 保護者の意識を高めるため、授業参観などの機会を生かし、学校全体で防災に関する授業を行う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者アンケートで「学校は、積極的に避難訓練や防災教育に取り組んでいる」と答える保護者の割合を 90%以上で維持する。</li> <li>・ 児童アンケートで「災害が起こったときは、どのように行動すればよいかわかった」と答える児童の割合を 90%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p><b>基本的生活習慣の確立、啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立に向け、HHA 強調週間、早寝・早起きについて強調する指導やお便りなどを通じて、指導と啓発を行う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者アンケートで「朝食を毎日食べている」と答える保護者の割合を 90%以上、「毎日、家庭で決めた時刻に起きている」と答える保護者の割合を 85%以上で維持し、「毎日、家庭で決めた時刻に寝ている」と答える保護者の割合は 75%を上回るようにする。</li> <li>・ 児童アンケートで「朝食を毎日食べている」と答える児童の割合を 90%以上、「毎日、家庭で決めた時刻に起きている」「毎日、家庭で決めた時刻に寝ている」と答える児童の割合を 75%以上で維持する。</li> <li>・ HHA 強調週間を、学期に 1 回実施する。</li> </ul>	

## 大阪市立大和田小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上 】</b></p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</p> <p>○ 前年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において課題であった長座体前屈（柔軟性）と 20m シャトルラン（持久力）の平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p><u>授業力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定し、全学年で ICT を活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組む。</li> <li>若手教員研修会「PEs」や校内研修を通して、若手教員の指導力向上を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業、公開授業を行った単元の終わりに、学習アンケートを実施し、「学習内容に、興味・関心を持つことができた」「学習内容を、理解することができた」という質問で肯定的に答える児童の割合を 80% 以上にする。</li> <li>2 年目教員の授業実践や、メンターを中心とする PEs の研修を年間 5 回以上行い、年度末に教員アンケートを実施して、「研修を行ったことで指導力の向上につながった」と答える教員の割合を 80% 以上にする。</li> <li>講師（外部を含む）を招いた研修の機会を 6 回以上もつ。</li> </ul>	



<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p><b>体力づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育科の授業以外に、運動ができる環境を整えたり、がんばりカードなどの資料を掲示したりする。</li> <li>・ なわとび、かけ足の強調週間や、水泳の記録、チャレンジ縄跳び大会、マラソン大会の実施と校内の表彰を活用しながら、児童の体力向上への意欲をさらに高める。</li> </ul> <p>( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートで「体育の授業以外に週 3 回以上運動する」と答える児童の割合を 85%以上にする。</li> <li>・ 児童アンケートで「運動やスポーツをすることが好き」と答える児童の割合を 85%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p><b>英語活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年週 2 回のフォニックス、3・4 年生の外国語活動、5・6 年生の外国語科を中心とした年間決められた時間を、ヒアリングとアウトプットを意識して実施する。</li> <li>・ アクティビティを充実し、C-NET や先生、友達との会話により英語を使ったコミュニケーションを深めることで英語を楽しむことができるようにする。</li> </ul> <p>( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートで「英語の学習は楽しいです。」と答える児童の割合を 75%以上、「友達や先生と英語を使ってコミュニケーションをとることができた。」と答える児童の割合を 70%以上、「英語を聞いて、その意味が少しずつ分かるようになった。」と答える児童の割合を 75%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容④【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p><b>読書活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の読書タイムで、一人読みや先生の読み聞かせで、子どもたちが楽しく本に親しむことを継続する。</li> <li>・ 学校図書館の運営に、図書委員会や、図書館補助員、図書館コーディネーター、地域の方々のご協力をいただき、毎日図書館を開放する。</li> <li>・ 学校図書館の蔵書数を増やしたり、市や区の図書館から本を借りたりするなど、本に親しむ環境を整える。</li> </ul> <p>( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケートで「読書が好き」と答える児童の割合を 75%以上にする。</li> <li>・ 児童アンケートで「本にふれることにより、新しい発見があったり、何かを知ったりすることができた」と答える児童の割合を 70%以上にする。</li> </ul>	

## 大阪市立大和田小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【 主体的・対話的で深い学びを通して、自他ともに認め合い支え合える豊かな心の育成 】</b></p> <p>○ 年度末の児童アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p><b>授業スタイルの改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、大型モニターに映したり、PC・タブレット端末の機能をうまく使ったりするなど、ICT を有効活用した授業を推進する。</li> <li>ICT を有効活用した授業の検討と共有、プログラミング教育の研修会を通して、論理的思考力を育てる授業をする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT (大型モニター・タブレット等) を有効活用することで、児童アンケートで「先生は大きいテレビに写したり、タブレットを活用したりすることで、分かりやすい授業の工夫をしてくれる」と答える児童の割合を、90%以上にし、「友達と一緒に考えたり、考えを伝え合ったりしている」と答える児童の割合を 80%以上にする。</li> <li>学年部会での指導案検討や ICT 公開授業の参観、プログラミング教育の研修会を通して、ICT 教育や論理的思考力について考える機会を年に 3 回以上持つ。</li> </ul>	
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p><b>自尊感情</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業や学級活動、たてわり班活動を通して、自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設定する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「友だちや違う学年の人から、ありがとうやすごいねと言われた</li> </ul>	

<p>ことがあります」「友だちや違う学年の人のいいところを見つけたり、伝えたりしたことがあります」という質問に対して、肯定的に答える児童の割合を 75%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p><u>道徳教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するために、道徳教育推進教師や若手教員研修会などを活用して、学校全体で授業の方法や評価のあり方に対する理解を深める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( )</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳科における研修などを活かし、年間 1 回は保護者・地域に道徳科の授業を公開する。</li> <li>児童アンケートで、「道徳科の学習を通して、自らの考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えることができた」という質問で、肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。</li> </ul>	